

SFRR Japan関連学会報告

第22回磁気共鳴医学会

第4回SFRR Japan合同学会

第4回SFRR Japan Meeting が第22回磁気共鳴医学会との合同学会として、2000年6月17日(土)・18日(日)の両日、東京にて開催された。今回は、放射線医学総合研究所の小澤俊彦研究総務官が大会会長を務めた。17日午前8時50分大会会長の挨拶に引き続き、一般口演が開始された。特別講演として17日に「酸化ストレス予防と食品機能」と題して大澤俊彦先生(名古屋大学大学院生命農学研究科教授)、18日に「電子スピン共鳴を用いた酸素ラジカルの研究」と題して二木鋭雄先生(宇都宮大学工学部教授)による講演があった。本会は一般口頭発表52演題、ポスター発表30演題であり、一酸化窒素(NO)、活性酸素・フリーラジカルの生成と検出、酸化的ストレス、抗酸化剤、遺伝子発現・シグナル伝達・アポトーシス、およびin vivo 計測と装置の改良について最新の研究成果が発表された。ポスター発表においてもポスター示説時間に先立ち各々1分でOHPを用いた発表内容の概要説明時間を設けたため、全体を把握するのに役立った。今回より学術奨励賞ノミネート者5名の講演を初日に設定し若手研究者が緊張の中で発表・討論を行い選考に臨んだ。本会参加者は150余名であり、白熱した討論が交わされ両日とも終了予定時刻を大幅に超過した。懇親会は初日夕刻に催され、チェンバロ演奏と出席者全員参加の英国ダンスのアトラクションにより昼間の緊迫感と打って変わって和気藹々とした雰囲気であった。全日程終了後に本年度の学会賞、学術奨励賞の授賞式があり、大会会長の挨拶で幕を閉じた。次回は大和田滋(聖マリアンナ医科大学内)助教授が大会会長を務め、今回同様磁気共鳴医学会との合同学会の形で2001年5月17日、18日に横浜産貿ホールにて開催される予定である。

(放射線医学総合研究所 竹下啓蔵)

第3回ESRセミナー

磁気共鳴医学会主催第3回ESRセミナーが、SFRR/Japanと共催で2000年8月11日東京都千代田区神田三崎町の東京歯科大学水道橋校舎血脳記念ホールにて開催された。小澤俊彦放射線医学総合研究所研究総務官(副所長)の開会の挨拶の後、「やさしいESRの解説」、「ESRのapplication」、「in vivo ESR」のセッションの順でセミナーが行われた。午前中の「やさしいESRの解説」のセッションでは西澤真裕先生がESRの基本的事項の解説について講演された。「ESRのapplication」のセッションでは、李昌一先生(神奈川歯科大薬理)、吉村哲彦先生(山形生物ラジカル研)、矢崎欽也先生(東京歯科大薬理)、河野雅弘先生(日本電子JEOL)により医学・生物学的応用や化学的応用などについての講演が行われた。続く「in vivo ESR」のセッションでは、佐野浩亮先生(第一ラジオアイソトープ)がin vivo ESRの現状についての講演が行われ、午後5時40分、河野先生の閉会の挨拶で終了した。開催が8月上旬であったことから、参加者は約30名(非会員8名)であったが、各講演では活発な質疑応答が交わされた。

(東京歯科大学歯科薬理 矢崎欽也)

「第10回 SFRR International

10th Biennial Meeting of the International Society for Free Radical Research: SFRR 2000」が下記のスケジュールで行われました。

会期:平成12年10月16日(月) - 20日(金)
会場:国立京都国際会館(京都市左京区宝ヶ池)
主催:第10回国際フリーラジカル学会組織委員会
会長:吉川敏一(京都府立医科大学第1内科)

副会長:中澤博江(東海大学医学部生理科学)
井上正康(大阪市立大学医学部生化学)

Scientific Program

○TREVOR SLATER'S AWARD LECTURE

Hyperoxic Hyperias as Quantified by Near Infrared (NIR) Spectroscopy of Brain Tissue O₂
B. Chance (USA)

○Special lecture

Gene-Specific Oxidative DNA Damage in Helicobacter pylori-infected Human Gastric Mucosa
M.-H. Chung (Korea)

○Plenary lecture

1. Modulation of Gene Expression and Signal Transduction by Environmental Stress.
Michael Karin (U.S.A.)
2. Lipid Peroxidation-dependent Mutagenetics: Chemistry and Biology.
Lawrence J. Marnett (U.S.A.)
3. Protein Tyrosine Nitration by Peroxynitrite: Role of Selenium in Protection.
Helmut Sies (Germany)
4. Lipoprotein Oxidation, Antioxidants and Atherosclerosis.
Roland Stocker (Australia)

○Symposium: 4

- S01: Apoptosis
- S02: Diabetes Mellitus
- S03: Mitochondria-related Diseases
- S04: Oxidative Stress Marker

○Oral session: 25

「第10回国際フリーラジカル学会(SFRR2000)を終えて」

平成12年10月16日-20日の間、京都国際会館でSociety for Free Radical Researchの第10回総会が開催されました。本会議は2年に一度開催されるフリーラジカルに関する最も大きな学会です。約2年間の準備期間の後、多くの組織委員の先生方、特にSFRR Japanの会員の先生方のご協力により無事本会が盛大裡に終了したことに、厚く御礼申し上げます。また、プログラム委員長として東京大学山本順寛先生、京都大学豊國伸哉先生には大変御世話になり、ここに深謝申し上げます。さて、会議の方は、招聘講演も著名な先生方ばかりで、多くの参加の先生方にも大変好評であったようです。M.Karin教授やL.J.Marnett教授は学会の前夜で他の日本の研究会、学会にも参加し、講演を行い、大変好評であったとの連絡を受けております。また、ランチオンセミナーや基調講演もほぼ満席であり、最終的には約800名の学会参加者となりました。次第に増加しつつあるフリーラジカル研究者に、大きなインパクトを与えることができたのではないかと考えております。会長の吉川敏一は、平成13年9月に新教授となって初めて引き受けた学会でもあり、Openingには本学学長の井端泰彦教授のご臨席をいただきました。会長は、SFRR2000の前に開催された過酸化脂質・フリーラジカル学会のなかで、21世紀は「臨床フリーラジカル学」の時代であると強調し、この分野の臨床応用に全力をあげる方針を明らかにしております。今後ともSFRR Japan会員諸氏のご協力をよろしくお願い申し上げます。最後は、今年はSFRR Indiaとの交流や12月にはSFRR AustralasiaとのJoint Meetingも開催予定で、また2002年には本総会がParisで開催されます。

「シャンゼリゼ通り、セーヌ川畔でお会いしましょう。」

第10回国際フリーラジカル学会事務局長
(京都府立医科大学第1内科 内藤裕二)

News letter

「Okinawa Satellite Symposium of 10th Biennial Meeting of the International Society for Free Radical Research "Aging and Natural Antioxidants"」

が下記のスケジュールで行われました。

Date: Oct. 21(Sat.)-23(Mon.), 2000
Place: BANKOKU SYINRYOKAN,
Nago-City, Okinawa
President: Toshikazu Yoshikawa
Secretary General and Treasurer: Yuji Naito
Local Organizing Committee:

Yoko Aniya(Chair person)
Masaru Nagamine(Secretary)

第10回国際フリーラジカル学会沖縄サテライトシンポジウム 「老化と天然抗酸化物」

日時：2000年10月21日-23日
会場：万国津梁館、沖縄県名護市
(沖縄サミット会議場あと)

会長：吉川敏一
特別講演：BN Ames, C. Rice-Evans, TM Bray, J. Terao
一般講演：ポスター
沖縄側世話人：安仁屋洋子

SFRR2000の一環として京都の国際フリーラジカル学会に続き10月21日と22日に沖縄サテライトシンポジウムが吉川敏一会長のもと国際フリーラジカル学会会長のH. Sies博士の御出席を得て沖縄県名護市の万国津梁館にて開催されました。21日は沖縄県とサテライトシンポジウム沖縄組織委員会主催による市民への講演会「沖縄の食文化を科学する」が開催され、3名の先生方(吉川敏一教授：健康・長寿と抗酸化物、大東 肇教授：ガン予防と食品因子、稲野宏志博士：ウコンによるがんの予防)の講演が那覇市内のホテルで行われました(約250名参加)。講演会のあと、万国津梁館にてサテライトシンポジウム参加者と沖縄関係者、市民との交流会(Banquet)が盛況に行われました。22日はB. N. Ames博士のPlenary lecture「Delaying aging with acetyl carnitine and lipoic acid」をはじめ外国から6人の招待講演と7人の日本人の講演がなされました。内容はミトコンドリアや蛋白酸化と老化、沖縄百歳長寿者の特性及び様々の抗酸化物の構造、動態、機能、老化に関する研究で、フロアからの活発な質疑、討論がありました。また、ポスターでは沖縄産天然抗酸化物関連11題、その他の抗酸化物6題、過酸化脂質と動脈硬化3題、がんとDNA9題、老化3題、免疫と酸化5題およびNO関連3題の合計40題のポスターの発表がありました。シンポジウム参加者は111名でした。シンポジウム終了後、ホテルのビーチでバーベキューパーティーが行われましたが、皆さんリゾートウェアに着替えられて晩夏の沖縄のビーチサイドパーティーを楽しんでおられました。今回のシンポジウム会場の万国津梁館は去る7月に先進国首脳会議が行われた風光明媚なリゾート地ですが、サミット後初の国際シンポジウムとして地元へ大きなインパクトを与えたと思います。

(琉球大学医学部保健学科 安仁屋洋子)

「7th Annual Meeting of The Oxygen Society」

が下記のスケジュールで行われました。

November 16-20, 2000
Paradise Point Resort
San Diego, California USA

○PRE-MEETING WORKSHOP: Nov. 16

In vivo Assessment of Oxidative Stress and Antioxidant Status:
From Concepts to Validations

○SUNRISE FREE RADICAL SCHOOL: Nov. 17-20

○PLENARY SESSIONS: Nov. 17-20

- ・The Role of Mitochondrial Oxidative Stress in Normal and Pathophysiological Conditions
- ・Oxidant-Related Cell Signaling
- ・Nitric Oxide and Inflammation
- ・Antioxidants Intake from Foods and Free Radical-Mediated Diseases

7th Annual Meeting of The Oxygen Society "Oxygen 2000"

2000年11月16日-11月20日の5日間、7th Annual Meeting of The Oxygen Society "Oxygen 2000" がアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴにおいて開催された。会場はサンディエゴ市北部のリゾートエリアに位置するリゾート施設であった。昨年に引き続き、オハイオ州立大学のTammy M. Bray教授が会長を務めた。初日の16日は朝8:30から夕方5:00まで「酸化ストレスと抗酸化状態のin vivo評価」というタイトルのワークショップが催された。このワークショップでは概念から測定法の実際そして問題点に至るまで12人の講演者により解説的に説明がなされ、討議された。2日目からは毎朝8:00より「フリーラジカルスクール」が始まり、「招待講演」で午前中を締めくくった。午後は2つの会場に分かれて一般口頭発表が行われたのち、「ポスター発表」と続き、夕方6:30にその日のセッションを終了した。「フリーラジカルスクール」は、化学反応や生化学的反應の基礎についての解説であり、このセッションが設けられていることはこの会議の特色である。「フリーラジカルスクール」と「招待講演」は初日が「ミトコンドリアにおける酸化ストレス」、2日目が「細胞におけるレドックス・シグナル」、以下「一酸化窒素(NO)と病態」、「抗酸化剤とフリーラジカルの関与する病態」と言うように日毎に大きなテーマが決められており、「フリーラジカルスクール」はその日の「招待講演」のイントロダクションとなるように工夫されていた。今回はミトコンドリア関連の酸化ストレスが大きく取り上げられていた。発表演題数は招待講演と一般講演で500近くに登る。我が国からも24演題の発表があったが、これは開催国のアメリカ合衆国に次いで多い。また、日本からの留学生の発表も入れるとかなりの数になるものと思われ、フリーラジカル研究における我が国の研究者の果たす役割も今や大きなものとなっている。レセプションは4日目の夕刻に催され、その場で若手研究者の表彰そして今回まで会長を務めたBray教授の熱のこもった挨拶が行われた。この会議は「フリーラジカルスクール」の開催などからもわかるように、次世代の若い研究者を育てようとする主催者側の趣旨が充分伝わり、内容も非常に充実したものとなっている。それを受けてか、ポスドクや大学院生などの若い研究者の参加も毎年多い。次回は2001年11月15日-19日にノースカロライナで開催される。

(放射線医学総合研究所 竹下啓蔵)

「第15回生体フリーラジカル研究会」

が下記のスケジュールで行われました。

日時：平成12年11月11日(土)
会場：テルモ(株)本社7階食堂(渋谷区幡ヶ谷2-44-1, TEL03-3374-8211)
当番世話人：三井記念病院 中央検査部 前畑英介

○特別講演

フリーラジカルと生活習慣病
(三井記念病院総合健診センター所長 山門 実)

○教育講演

EC-SODの生理的機能と病態での変化
(岐阜薬科大学助教授 足立哲夫)

○ランチョンレクチャー

透析膜の血液接触とラジカル産生能の誘発
(テルモ(株)主任研究員 佐々木正富)

○透析時のビタミンEのscavenging効果について

(たかみや病院院長 高宮登美)

生体フリーラジカル研究会世話人会で第15回の担当を三井記念病院に仰せつかった。そのため、第15回生体フリーラジカル研究会事務局を三井記念病院中央検査部(担当：下村、矢野)に置き世話をする事にした。

第15回研究会の狙いを「臨床に近づけたフリーラジカルの研究」とし、プログラムを企画した。

日時は平成12年11月11日(土) 9:00~17:00とし、テルモ本社講堂を借用しての開催となった。参加者は関東地区を中心に集り、70名の参加があった。臨床の場に近づけたフリーラジカルということもあって、臨床検査やメーカーの臨床薬剤関係者も多数参加して下さった。

研究会の内容を要約すると、講演と一般演題に特別つけた。糖尿病を基礎疾患とする生活習慣病が注目されていることもあって、特別講演は三井記念病院総合健診センター所長の山門 実先生に「フリーラ

ジカルと生活習慣病」と題して講演して頂いた。血管損傷マーカーが関心事となっているので、教育講演は岐阜薬科大学助教授の足立哲夫先生に「EC-SODの生理的機構と病態での変化」と題して講演して頂いた。今回はランチョンレクチャーを企画に加えた。腎不全の高クレアチニン血症(Creat. >10 mg/dl)に治療される血液透析時の透析膜と血液の接触はラジカル産生能を誘発することから、透析膜の研究者でテルモの佐々木正富先生にレクチャーをお願いし、追加発言としてたかみや病院院長の高宮登美先生に「ビタミンC及びビタミンEの抗酸化作用効果について」をお願いした。

研究会を概して、活発な質疑応答に終始し、実りの多い発表がなされ、時代を捕らえた研究会であった。研究会終了後、直ちに懇親会を開きフリーラジカルを学ぶ仲間同士の情報交換、懇親を深めて頂いた。

次回の第16回フリーラジカル研究会は平成13年12月、昭和大学医学部脳神経外科の池田幸穂先生のお世話で開催される予定である。

(第15回生体フリーラジカル研究会当番世話人: 三井記念病院 前畑英介)

「第23回磁気共鳴医学会・第5回SFRR Japan合同学会」

が下記のスケジュールで行われました。

日 時: 2001年5月17日(木), 18日(金)

会 場: 横浜シンポジア (横浜市中区山下町 産業貿易センタービル 9階)

大会長: 聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 大和田 滋

○特別講演:

"Progress in MRS Applications to Study Vascular Smooth Muscle"

J. F. Clark 先生 (Dept. of Neurology, Univ. of Cincinnati Medical Center)

○教育講演:

「NO 合成調節」

森 正敬 先生 (熊本医科大学・医学部・分子遺伝学)

○ワークショップ:

"MRSの進歩 - 臨床への応用"

○一般演題: (口演・ポスター)

第5回SFRR Japan Meetingが第23回磁気共鳴医学会との合同学会として、2001年5月17日(木)・18日(金)に横浜で開催されました。大会会長は聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科の大和田滋が務め、活発な討論のもと2日間の日程を無事に終了することができました。

特別講演は17日、J.F.Clark先生(Univ. of Cincinnati Medical Center)に「Progress in MRS Applications to Study Vascular Smooth Muscle」と題して御講演いただき、18日には「NO 合成調節」と題し、森正敬先生(熊本大学医学部分子遺伝学・教授)に教育講演をおこなっていただきました。また、近年MRスペクトロスコピーを応用した生体成分の分析が活発に行われており、神経、心臓および骨格筋等のエネルギー状態が無侵襲に評価され多くの研究成果があげられています。そこで今回の合同学会では、今村恵子先生(聖マリアンナ医科大学 放射線医学・助教授)に司会をお願いし、「MRSの進歩 - 臨床への応用」と題したワークショップを開催し、各臨床分野の御専門の先生方に最新の研究成果を講演いただきました。

本会は一般口演発表44演題、ポスター発表25演題であり、幅広い分野から約200名の専門の先生方が出席されました。研究成果の発表ならびに活発な質疑応答をおとして、例年通りの成果が得られたと思われました。しかし、口演発表はプログラムの作成上、発表9分、質疑応答3分といった短い時間しかとれず、座長、御発表の先生方に御迷惑をおかけしたのではと反省しております。ポスター発表も2日間にわたって活発な討論がおこなわれました。私共が準備したワインも無事(?)、その任務を全うできたのではと思います。

18日、プログラム終了後、学会賞、学術奨励賞の受賞式がおこなわれ、大会長ならびに吉川敏一会長の挨拶で閉会しました。今回は、井上正康先生(大阪市立医科大学 生化学・教授)が大会会長を務め、本合同学会が新たなかたちで開催される予定です。(聖マリアンナ医科大学 腎臓・高血圧内科 大塚政之)

学術学会の開催予定

SFRR オーストラレーシア & SFRR Japan 合同学会

日時: 平成13年12月1-4日

会場: シドニー大学, 獣医学部カンファレンスセンター

(The Veterinary Faculty Conference Centre, University of Sydney)
[シドニー/オーストラリア]

○Topics to be covered by the conference include:

- Ageing,
- Apoptosis and Necrosis
- Cancer
- Inflammation
- Markers of Oxidative Stress/Damage
- Metal Ions and Redox Chemistry
- Microorganisms, Immune Responses
- Peroxidases, Cytochrome P-450 and Oxidative Strength
- Photo- and Radiation Biology
- Plants, Plant-derived and Other Natural Antioxidants
- Polymerization, Catalysis and Inhibitors
- Radicals in Chemical Synthesis
- Reactive Nitrogen Species
- Redox Control of Activity of (Metal-Free) Proteins
- Redox Regulation of Cellular Function
- Redox Processes in Cardiovascular Diseases
- Relationship between Markers of Oxidative Damage and Disease
- Singlet Oxygen
- Synthetic Antioxidants, Pharmaceuticals, Vitamins and Coenzymes

○Keynote and invited speaker

Kevin Croft	Satoshi Kokura	Shinya Toyokuni
Ian Dawes	Martin Lavin	Koji Uchida
Chris Easton	Michael Murray	Hideo Utsumi
Jason Elserich	Yasukazu Nakagawa	Joe Vita
Balz Frei	Hajime Nakamura	Christine Winterbourn
Junichi Fujii	Futoshi Okada	Yorihiro Yamamoto
Phillip Hogg	Salvatore Pepe	
Tony Kettle	Makoto Suematsu	

○カンファレンスは16の講演とポスターセッションが行われ、一般演題(口演)の約半数が抄録より選出される予定です。

○演題申し込み要領: 申し込み要領の詳細は下記のweb site
あるいはe-mailにてお問い合わせください。

○抄録締め切り: 平成13年10月1日

○お問い合わせ先: Kaylene Thomas, The Heart Research Institute, 145
Missenden Rd Camperdown, Sydney, NSW, 2050.
Tel: +61-2-9550-3560
Fax: +61-2-9550-3302
E-mail: sfrr.sydney.2001@hri.org.au
<http://www.med.usyd.edu.au/path/society2.htm>

その他

第4回 SFRR Japan 評議員会報告

2000年6月17日、第4回 SFRR Japan、第22回磁気共鳴医学会合同学会において第4回 SFRR Japan 評議員会が開かれた。

議題および報告事項

1. 経過報告
2. 会計報告
 - 1) 平成11年度会計報告
 - 2) 平成12年度会計現況報告
 - 3) SFRR Asia 会計報告
3. 第5回 SFRR Japan Meeting: 第23回磁気共鳴医学会とのJoint meeting について
4. SFRR Internationalに関する報告
5. SFRR 2000 に関する報告
6. SFRR Asia に関する報告
7. SFRR Japan に関する報告
 - 1) 会員状況
 - 2) 評議員選出について
8. 第4回 SFRR Japan 学会賞、学術奨励賞選考について
 - 1) 経過報告
 - 2) 次期選考委員について
9. SFRR Japan 会員名簿作成について
10. その他
 - SFRRオーストラレーシア合同学会発足について

第5回 SFRR Japan 評議員会報告

2001年5月17日、第5回 SFRR Japan・第23回磁気共鳴医学会合同学会において、第5回 SFRR Japan 評議員会が開かれた。

議題および報告事項

1. SFRR Japan 会長挨拶 経過報告
2. 事務局ならびに事務局長の変更報告
3. 第5回 SFRR Japan 会長挨拶
4. 2000年 SFRR Japan 会計収支報告
5. 2001年 SFRR Japan 予算案について
6. 新評議員の推薦について
7. SFRR Japan 学会賞および学会奨励賞について
8. 2002年度学会賞、奨励賞選考委員の選定について
9. 今後の合同学会の在り方について
10. 2002年・2003年 SFRR Japan 会議会長の選定
11. 2001 SFRR A+J Meeting について
12. Young Investigator Award for 2001 SFRR A+J Meeting
13. その他
 - ・第1回高知工科大学複合領域産学官共同シンポジウムへの後援依頼について

第5回学会賞・学会奨励賞

厳正な討議の結果、以下の方々に決定いたしました。

学会賞	中澤博江先生 (東海大学医学部生理科学)
学会奨励賞	南山幸子先生 (大阪市立大学医学部生化学)
	山盛 徹先生 (北海道大学大学院獣医学)

※平成13年4月1日付にて以下のように役員および事務局が変更となりました。

会 長	吉川 敏一 (京都府立医科大学第1内科)
事務局長	内藤 裕二 (京都府立医科大学第1内科)
会 計	長野 哲雄 (東京大学大学院薬学系研究科薬品代謝化学)

事務局:

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
 京都府立医科大学 第1内科学教室内
 TEL: 075-251-5504 FAX: 075-252-3721
 E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp

SFRR Japan事務局より

- ・お詫び: 事務局の移動に伴いNewsLetterの発行が大変遅れ、会員の方々にご迷惑をおかけ致しましたこと、深くお詫び申し上げます。
- ・SFRR Japan Newsletterに掲載を希望される方、あるいはご意見などありましたら事務局までご連絡ください。

SFRR Japan事務局:

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465
 京都府立医科大学、第一内科内、SFRR Japan事務局
 TEL: 075-251-5505, FAX: 075-252-3721